

野外教育プログラム参加による青少年の生きる力に及ぼす影響

－和歌山 YMCA の事例をもとに－

明治大学 経営学部 会計学科

4年 19組 14番 志茂 友美

## 目次

まえがき・・・・・・・・・・2

はじめに・・・・・・・・・・3

第1章 先行研究の整理と本研究について・・・・・・・・・・4

1. 現代の子どもの特徴・・・・・・・・・・4

2. 子ども期とあそび・・・・・・・・・・4

3. 悪化の循環・・・・・・・・・・4

4. 体験活動の教育的意義・・・・・・・・・・5

5. 長期宿泊体験が有する意義・・・・・・・・・・5

6. 「キャンプ中の自然へのアタッチメントを感じる体験が小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果」・・・・・・・・・・6

7. 「長期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす影響」・・・・・・・・・・6

第2章 調査対象とその内容・・・・・・・・・・6

1. 研究目的・・・・・・・・・・6

2. 調査対象・・・・・・・・・・7

3. 調査方法・内容・・・・・・・・・・8

第3章 野外教育を通じた青少年の変容について－アンケート結果・考察－・・・・・・・・・・11

1. アンケート結果・・・・・・・・・・11

2. 考察・・・・・・・・・・15

参考文献・・・・・・・・・・16

資料一覧・・・・・・・・・・17

まえがき

筆者は小学1年から高校3年までの12年間、認定NPO法人和歌山YMCAというボランティア団体が主催するキャンプに毎年、年に2回参加していた。また大学生になってからはユースボランティアとして実際にキャンプや日帰りの野外活動の企画・運営に携わっている。和歌山YMCAの野外活動は市少年の育成を目標に活動している。そこで、その活動がどんな影響をどれだけ子どもたちに与えているのかに興味を持ち調査するに至った。

はじめに

文部科学省による令和2年度における児童生徒の行動等の調査結果によると、小・中・高等学校及び特別支援におけるいじめの認知件数は517,163件であり、前年度に比べ15.6%減少した。平成26年度以降認知件数は増加が続いていたが、令和2年度では全校種で大幅な減少となった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、生活環境が変化し、様々な活動が制限され、児童生徒間の物理的な距離が広がったこと等により認知件数が減少したと考えられる。これは、暴力行為においても同じことが言える。一方で、小・中学校における不登校・小・中・高等学校の自殺者数はコロナ期に関わらず年々増加している。つまり、コロナ期以前はこれらすべての社会問題において増加しており、新型コロナウイルスが無ければ現在も増加していたのではないかと予測される。このように子どもに関する多種多様な社会問題が増加する現代において必要とされているのが「生きる力」である。<sup>1</sup>

文部科学省による現行学習指導要領は、平成8年7月の中央教育審議会答申を踏まえ、現代の子どもたちに必要な力は、「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」であるとの理念に立脚している。この「生きる力」は、自己の人格を磨き、豊かな人生を送る上でも不可欠である。」と述べている。<sup>2</sup>

「生きる力」を伸ばすのに有効な手段の1つとして野外活動がある。野外活動の代表的なものとしてキャンプが挙げられる。ソロキャンプ、デイキャンプ、グランピングなどキャンプと一概に言っても様々な種類のキャンプが存在する。芸能人のキャンプの様子やキャンプ飯についての動画がユーチューブに挙げられ、テレビ番組や雑誌で特集が組まれるなどコロナ禍でキャンプブームが起こっている。ブーム以前からキャンプは行われていたし、ブームが冷めようとも今後キャンプが無くなることはないだろう。現在、子どもを対象に野外教育という形で野外活動やキャンプを行っている団体はいくつも存在し、その中の1つにYMCAがある。ここでは、和歌山YMCAにおける活動を通した子どもの変化に注目する。

---

<sup>1</sup> 文部科学省 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要

<sup>2</sup> 文部科学省資料11「生きる力」と資質・能力について（平成20年中央教育審議会答申抜粋 000000000000）

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/095/shiryo/attach/1329017.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/095/shiryo/attach/1329017.htm)

## 第1章 先行研究の整理と本研究について

### (1)現代の子どもの特徴

現在の日本の若者・子どもたちには、他者への思いやりや迷惑をかけないという気持ち、生命尊重・人権尊重の心、正義感や遵法精神の低下、基本的な生活習慣の乱れ、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向が指摘されている。

とりわけ、以下に掲げる現象については、子どもの徳育への影響が大きいものとして重視しなければならない。

- ① 新しいメディア技術の発達の影響等
- ② 家族・地域社会等の変化を背景とした体験活動の減少
- ③ 利己的な風潮等、社会の風潮の変化
- ④ 厳しい家庭環境の中で育つ子どもの存在

4つの中でこの論文で焦点を当てる②について詳しく述べる。

#### ②家族・地域社会等の変化を背景とした体験活動の減少

核家族化や少子化の進展が生じている中、子どもが兄弟姉妹や友人同士で遊び、切磋琢磨したり、祖父母等と触れあうといった機会が減少している。さらには、地域社会においても、地縁的なつながりの弱まりや、人間関係の希薄化が進む中、子どもの心の成長の糧となる生活体験や自然体験の機会が減少している。また、子どもの生活スタイルも、自然環境から遊離してきており、自他の生命の尊重の精神を身につける機会が奪われていることも指摘されている。また、子どもたちの人間関係を構築する力や、社会性の減少といった問題も指摘されている。<sup>3</sup>

### (2)子ども期とあそび

H・ハーロウのアカゲザルの隔離実験により、子ザルたちは群れの中で、血縁の者以外にもリーダー雄、若者、よそのおばさんなどとのつきあいを通じて、社会性を身につけていく。最も重要な社会行動でと言われる、子どもどうしの遊びを通して、子どもたちは社会関係の基礎を学習することが明らかである。<sup>4</sup>つまり、人間などの社会的な動物は子ども時代に集団の中で生活することによって、子ども期に豊かな社会性を身に着けることが大切である。

### (3)悪化の循環

あそび時間、あそび空間、あそび集団、あそび方法という4つのあそび環境の要素は、

---

<sup>3</sup> 文部科学省ホームページ

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286155.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286155.htm)

<sup>4</sup> 河合雅雄 (2007)『子どもと自然』岩波新書 78 ページ

お互いに影響しあっている。あそび時間がないから友だちがつかれないし、難しい複雑なあそびができない。短時間で簡単なあそびしか体験できない。あそびの方法が貧困化してしまう。そしてあそびそのものに対する意欲さえ失ってしまう。あそび場が少なくなって、子どもたちがあそびのたまり場を失い、それによってあそび集団が小さくなり、あるいはなくなる。そのことによって大きい子どもから小さい子どもへ、おもしろいあそびの方法を伝えることができなくなり、あそびの方法が貧困化していく。さらにそのためにあそび意欲がなくなり、外あそびの時間がさらに少なくなっていく。このようにあそび環境はますます悪化していく。これをあそび環境の悪化の循環と呼ぶ。<sup>5</sup>

これらのことから、あそびにおいて時間・空間・集団・方法のすべてを確保し子どもに与えてあげることが重要であるとわかる。

#### (4)体験活動の教育的意義

体験活動とは、文字どおり、自分の身体を通して実地に経験する活動のことであり、子どもたちが身体全体で対象に働きかけ、かかわっていく活動のことである。今後の教育において重視されなければならないのは、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」である。体験活動は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されている。具体的には、次のような点において効果があると考えられる。

- ①現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上
- ②問題発見や問題解決能力の育成
- ③思考や理解の基盤づくり
- ④教科等の「知」の総合化と実践化
- ⑤自己との出会いと成就感や自尊感情の獲得
- ⑥社会性や共に生きる力の育成
- ⑦豊かな人間性や価値観の形成
- ⑧基礎的な体力や心身の健康の保持増進

#### (5)長期宿泊体験が有する意義

体験活動が課題解決に果たす役割は大きいと考えられる。例えば、自然体験が豊富な子どもの中には道徳観・正義感に富む子どもが多いなど、自然体験が子どもに一定程度の良い効果をもたらすことが各種調査等から明らかになりつつある。昨今特に指摘される子どもの対人関係面や意欲面での課題を考えると、特に自然の中での長期宿泊体験活動が効果を挙げるのではないかと考えられる。ここでは、長期宿泊体験活動で期待される4つの効果について述べる。

---

<sup>5</sup> 仙田満（2006）『子どもと遊び－環境建築家の眼－』岩波新書 171 ページ

- ① 集団生活の中で協調性・自律性を育む
- ② 「知」を総合化し、課題発見能力や問題解決能力を高める
- ③ 学びの意欲を促進する
- ④ 幅広い年齢層との多様な交流の機会を得る

(6)「キャンプ中の自然へのアタッチメントを感じる体験が小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果」

この橘ほか(2003)が行ったこの研究では、成人後の環境行動に影響を及ぼしたキャンプの体験として、五感を通じた直接的な自然とのふれあい、野外での生活、野生生物や高山植物との出会い、環境配慮行動の4つを挙げている。

結果から、キャンプにおいて自然へのアタッチメントを感じる体験が深かった者は自然に対する態度が向上することが明らかなり、キャンプの参加者に自然へのアタッチメントを感じる体験を促進するためには、自然豊かな環境の中で、自然との直接的なふれあいができるような活動を取り入れ、自然との一体感や親近感を感じられるような機会を設けるといいだろう。そのためにも、宿泊を伴った遠征登山は有効であると言える述べている。<sup>6</sup>

(7)「長期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす影響」

橘ほか(2003)が行った本研究は、長期キャンプに参加した小中学生を対象に、キャンプ前後で生きる力がどのように変容するか・どのようなキャンプが生きる力の向上に効果的かを検証することを目的としている。結果効果がみられる事業・効果がみられない事業を含めて、全体の参加者平均で確かな向上に効果的であると言える。また参加者にとって、日常生活とは異なる困難で厳しい条件下のキャンプの方が生きる力の向上に効果的という結果が得られた。

## 第2章 調査対象とその内容

### (1)研究目的

橘ほか(2003)が行った「キャンプ中の自然へのアタッチメントを感じる体験が小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果」と「長期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす影

---

<sup>6</sup> 岡田成弘・坂本昭裕・川田泰紀・堀松雅博 2019 キャンプ中の自然へのアタッチメントを感じる体験が小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果. 野外教育研究 22-2:1-15.

響」の2つの結果から、キャンプは子どもの生きる力に有効であることが立証されたが、デイキャンプ(宿泊を伴わないキャンプ)や日帰りの野外活動では効果が得られるのかが不明である。そこで、ここでは単一のキャンプによって得られる効果ではなく、継続的な野外活動でも生きる力の向上に効果が得られるのかについて調査を行う。

YMCAでのプログラムを経験し、企画・運営してきた筆者が考える野外活動によって生きる力が伸びる要因について考える。1つ目に、家族や学校などの慣れ親しんだ環境から離れ、新たなコミュニティで交友関係を築かなければならない状況に身を置くことになるのでコミュニケーション能力が必要になる。また、自然界の中では食べるものも寝る場所も自分たちで作らなければ何も無い。ただ、経験がないので1人ではできない、もしくはできることに限りがある。それがコミュニケーションのきっかけになる。共に初めてのことにチャレンジし、寝食を共にし、達成感を味わう。自分の事に余裕ができれば友達に手を差し伸べ、自分ができないときには助けを求める。そうすれば、感謝の気持ちを持つこともできる。こういった経験を1度体験すれば、日常生活に戻ったときに実践しやすくなると思う。

## (2)調査対象

この論文におけるアンケート調査は2022年10月、和歌山YMCAの野外活動クラブ、小学3年生以上の子ども(本人)を対象に実施した。

YMCAとは世界120の国と地域で、およそ6500万人の会員を有するNGO(非営利組織)。日本国内では「みつかる。つながる。よくなっていく。」をスローガンに、地域や人々のニーズに合わせたプログラムを提供している。日本YMCA同盟は、全国の都市YMCAおよび学生YMCAの加盟により組織、国内および海外のYMCAとの連絡調整を主として活動している。国内にあるYMCAの地域別所在地は、北海道・盛岡・仙台・ぐんま・とちぎ・茨城・千葉・埼玉・東京・在日本韓国・横浜・山梨・静岡・富山・金沢・名古屋・三重・滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・神戸・姫路・福知山・せとうち・広島・鳥取・松山・北九州・福岡・長崎・鹿児島・沖縄である。

リーダーとはYMCAのキャンプや野外活動、障がい児・者のプログラムなどで、企画・準備から引率・運営を担う。その中の学生ボランティア(YMCAでは「ボランティアリーダー」、通称「リーダー」)の対象とされるのは、18歳以上の主に学生で、一部社会人のリーダーが存在する。YMCAのリーダーは、子どもたちと一緒に活動を楽しむ子どもたちに近い「ナナメの関係」で、寄り添いしながら成長を見守る存在である。子どももリーダーも共に成長していく活動がYMCAの青少年活動の特徴である。

和歌山YMCAは、月に1度、丸1日、自然の中で、他学年の集団の中での直接体験プログラムを子どもたちに提供している。これは第1章で述べたあそび時間、あそび空間、あそび集団、あそび方法という4つのあそび環境の要素を全て含んでおり、子どもの生きる力を伸ばすために有効であると言える。



### (3)調査方法・内容

毎月、月に1度行われる野外活動の参加者を対象とした調査で使用する質問事項は、橘らが報告した生きる力を構成する指標を元にして作成した。橘らの指標は、生きる力を表す99項目をクラスター分析したもので、下位のものとして17の指標をあげている。しかし、この中には各々の指標を構成する項目が少ないものがあるため、それらを統合し14の指標を用いた。そして生きる力の下位尺度となる各指標につき5つの質問項目を選んだ。この結果、本調査でを使用した質問項目および指標（下位尺度）とその構成は、表-1、図-1のようになっている。この質問事項は、14下位尺度×5項目=70項目で構成されており、各下位尺度5項目のうち1項目は反転項目としている。項目の配列に関しては、クラスターの隣接したものが連続しないように配慮して各下位尺度に属する14項目を配列し、15番目以降の項目については1~14番目の項目と同じ順序で配列した。各項目においては「とてもよくあてはまる」と「まったくあてはまらない」を両端とし、間隔尺度として6段階（6~1点）の自己評定を調査対象者に求めた。

| 下位尺度    | NO. | 質問項目 (○)は反転項目               |
|---------|-----|-----------------------------|
| 非依存     | 1.  | いやなことは、いやとはっきり言える           |
| 非依存     | 15. | 小さな失敗をおそれない                 |
| 非依存     | 29. | あたらしいものごとに、すぐ慣れることができない (○) |
| 非依存     | 43. | さまざまなことを、真摯に体験している          |
| 非依存     | 57. | 自由な発想ができる                   |
| 積極性     | 11. | 前向きに、物事を考えられる               |
| 積極性     | 25. | 自分のちからで、問題を解決しようとする         |
| 積極性     | 39. | 未来への夢と希望はあまりもっていない (○)      |
| 積極性     | 53. | いろいろなことに興味がある               |
| 積極性     | 67. | 自分からすすんで、何でもやる              |
| 明朗性     | 5.  | だれにでも話しかけることができる            |
| 明朗性     | 19. | 小さなことで、くよくよする (○)           |
| 明朗性     | 33. | いつも笑顔ですごしている                |
| 明朗性     | 47. | 失敗しても、立ち直るのがはやい             |
| 明朗性     | 61. | やりたいことが、たくさんある              |
| 交友・協調   | 7.  | グループをうまく、まとめることができる         |
| 交友・協調   | 21. | おとなや年上の人と、うまくつきあえる          |
| 交友・協調   | 35. | 多くの人に好かれている                 |
| 交友・協調   | 49. | 仲間とうまくつきあえない (○)            |
| 交友・協調   | 63. | だれとでも仲よくできる                 |
| 現実肯定    | 9.  | 「ありがとう」「ごめんなさい」がうまく言えない (○) |
| 現実肯定    | 23. | 生きてよかったと思っている               |
| 現実肯定    | 37. | だれにでも、あいさつができる              |
| 現実肯定    | 51. | 今の自分は、しあわせだと思う              |
| 現実肯定    | 65. | 自分のことが大好きである                |
| 視野・判断   | 3.  | 自分で問題点や課題を見つけることができる        |
| 視野・判断   | 17. | わからないことは自分で調べる              |
| 視野・判断   | 31. | 先を見通して、自分で計画が立てられる          |
| 視野・判断   | 45. | さまざまな情報から、必要なものが選べる         |
| 視野・判断   | 59. | 自分のいいところ、わるいところをよく知らない (○)  |
| 適応行動    | 8.  | 人の話をきちんと聞くことができる            |
| 適応行動    | 22. | その場にあわせて行動ができる              |
| 適応行動    | 36. | 積み重ねが、しっかりできる               |
| 適応行動    | 50. | 自分でできることは自分でやる              |
| 適応行動    | 64. | 根気がない (○)                   |
| 自己規制    | 14. | 人の悪口をよく言う (○)               |
| 自己規制    | 28. | 自分かってな、わがままを言わない            |
| 自己規制    | 42. | 身のまわりの片づけや、そうじができる          |
| 自己規制    | 70. | 誰がたっても、おさえることができる           |
| 自己規制    | 56. | お金やモノのむだ使いをしない              |
| 自然への関心  | 6.  | 花や風景などの美しいものに、感動できる         |
| 自然への関心  | 20. | 生きものを、とても大切にずる              |
| 自然への関心  | 48. | 季節の感化を感じるができる               |
| 自然への関心  | 34. | 草花の世話はあまり好きでない (○)          |
| 自然への関心  | 62. | 自然の中のできごとに興味がある             |
| まじめ動機   | 12. | していいこと、してはいけないことの本音がわかる     |
| まじめ動機   | 26. | いやがらずに、よく働く                 |
| まじめ動機   | 40. | きまりやルールを守るができる              |
| まじめ動機   | 54. | 他人にはあまり親切でない (○)            |
| まじめ動機   | 68. | 自分に割当てられた仕事は、しっかりとやる        |
| 思いやり    | 2.  | 人のために何かをしてあげるのが好きだ          |
| 思いやり    | 16. | あいての立場になって考えることができる         |
| 思いやり    | 30. | 自分とちがう意見や考えを、うけいれることができる    |
| 思いやり    | 44. | 他人の失敗を、ゆるすことができない (○)       |
| 思いやり    | 58. | 人の心の痛みがわかる                  |
| 日常的行動力  | 13. | へやの中でなく、外であそぶのが好きである        |
| 日常的行動力  | 27. | からだを動かしても、疲れにくい             |
| 日常的行動力  | 41. | とても大きな声を出すことができる            |
| 日常的行動力  | 55. | 早寝早起きである                    |
| 日常的行動力  | 69. | 食べものの好き嫌いが多い (○)            |
| 身体的耐性   | 4.  | 雨風にかかりやすい (○)               |
| 身体的耐性   | 18. | すこしくらい血がでてでも平気である           |
| 身体的耐性   | 32. | 暑さや寒さに、まげない                 |
| 身体的耐性   | 46. | ながい距離を歩くことができる              |
| 身体的耐性   | 60. | とても痛いケガをしても、がまんできる          |
| 野外技能・生活 | 10. | 自分で食事がつくれる                  |
| 野外技能・生活 | 24. | いろいろな動物や虫を、手でさわることができない (○) |
| 野外技能・生活 | 38. | ナイフなどの刃物を、上手に使える            |
| 野外技能・生活 | 52. | くらい林の中の道を、ひとりですくことができる      |
| 野外技能・生活 | 66. | 洗濯機がなくても、手で洗濯できる            |

表 - 1 本研究で使用した質問項目



図 - 1 本調査で使用した「生きる力」を構成する指標

出展；橘ほか(2003)「生きる力を構成する指標」

| 下位尺度    | NO. | 質問項目 (*は反転項目)               |
|---------|-----|-----------------------------|
| 非依存     | 1.  | いやなことは、いやとはっきり言える           |
| 非依存     | 15. | 小さな失敗をおそれない                 |
| 非依存     | 29. | あたらしいものごとに、すぐ慣れることができない (*) |
| 非依存     | 43. | さまざまなことを、真摯に体験している          |
| 非依存     | 57. | 自由な発想ができる                   |
| 積極性     | 11. | 前向きに、物事を考えられる               |
| 積極性     | 25. | 自分のちからで、問題を解決しようとする         |
| 積極性     | 39. | 未来への夢と希望はあまりもっていない (*)      |
| 積極性     | 53. | いろいろなことに興味がある               |
| 積極性     | 67. | 自分からすすんで、何でもやる              |
| 明朗性     | 3.  | だれにでも話しかけることができる            |
| 明朗性     | 19. | 小さなことで、くよくよする (*)           |
| 明朗性     | 33. | いつも笑顔で過ごしている                |
| 明朗性     | 47. | 失敗しても、立ち直るのがはやい             |
| 明朗性     | 61. | やりたいことが、たくさんある              |
| 交友・協調   | 7.  | グループをうまく、まとめることができる         |
| 交友・協調   | 21. | おとなや年上の人と、うまくつきあえる          |
| 交友・協調   | 35. | 多くの人に好かれている                 |
| 交友・協調   | 49. | 仲間とうまくつきあえない (*)            |
| 交友・協調   | 63. | だれとでも仲よくできる                 |
| 現実肯定    | 9.  | 「ありがとう」「ごめんなさい」がうまく言えない (*) |
| 現実肯定    | 23. | 生きててよかったと思っている              |
| 現実肯定    | 37. | だれにでも、あいさつができる              |
| 現実肯定    | 51. | 今の自分は、しあわせだと思う              |
| 現実肯定    | 65. | 自分のことが大好きである                |
| 視野・判断   | 3.  | 自分で問題点や課題を見つけることができる        |
| 視野・判断   | 17. | わからないことは自分で調べる              |
| 視野・判断   | 31. | 先を見通して、自分で計画を立てられる          |
| 視野・判断   | 45. | さまざまな情報から、必要なものが選べる         |
| 視野・判断   | 59. | 自分のいいところ、わるいところをよく知らない (*)  |
| 適応行動    | 8.  | 人の話をきちんと聞くことができる            |
| 適応行動    | 22. | その場にふさわしい行動ができる             |
| 適応行動    | 36. | 読み書きが、しっかりできる               |
| 適応行動    | 50. | 自分でできることは自分でやる              |
| 適応行動    | 64. | 機嫌がない (*)                   |
| 自己規制    | 14. | 人の悪口をよく言う (*)               |
| 自己規制    | 28. | 自分かってな、わがままを言わない            |
| 自己規制    | 42. | 身のまわりの片づけや、そうじができる          |
| 自己規制    | 70. | 腹がたっても、おさえることができる           |
| 自己規制    | 56. | お金やモノのむだ使いをしない              |
| 自然への関心  | 6.  | 花や風景などの美しいものに、感動できる         |
| 自然への関心  | 20. | 生きものを、とても大切にする              |
| 自然への関心  | 48. | 季節の変化を感じる事ができる              |
| 自然への関心  | 34. | 草花の世話はあまり好きでない (*)          |
| 自然への関心  | 62. | 自然の中のできごとに興味がある             |
| まじめ勤勉   | 12. | していいこと、してはいけないことの判断ができる     |
| まじめ勤勉   | 26. | いやがらずに、よく働く                 |
| まじめ勤勉   | 40. | きまりやルールを守る事ができる             |
| まじめ勤勉   | 54. | 他人にはあまり親切でない (*)            |
| まじめ勤勉   | 68. | 自分に割当てられた仕事は、しっかりとやる        |
| 思いやり    | 2.  | 人のために何かをしてあげるのが好きだ          |
| 思いやり    | 16. | あいての立場になって考えることができる         |
| 思いやり    | 30. | 自分とちがう意見や考えを、うけいれることができる    |
| 思いやり    | 44. | 他人の失敗を、ゆるすことができない (*)       |
| 思いやり    | 58. | 人の心の痛みがわかる                  |
| 日常的行動力  | 13. | へやの中でなく、外であそぶのが好きである        |
| 日常的行動力  | 27. | からだを動かしても、疲れにくい             |
| 日常的行動力  | 41. | とても大きな声を出すことができる            |
| 日常的行動力  | 55. | 早寝早起きである                    |
| 日常的行動力  | 69. | 食べものの好き嫌いが多い (*)            |
| 身体的耐性   | 4.  | 病気にかかりやすい (*)               |
| 身体的耐性   | 18. | すこしくらい血がでてても平気である           |
| 身体的耐性   | 32. | 暑さや寒さに、まげない                 |
| 身体的耐性   | 46. | ながい距離を歩くことができる              |
| 身体的耐性   | 60. | とても痛いケガをしても、がまんできる          |
| 野外技能・生活 | 10. | 自分で食事がつくれる                  |
| 野外技能・生活 | 24. | いろいろな動物や虫を、手でさわることができない (*) |
| 野外技能・生活 | 38. | ナイフなどの刃物を、上手に使える            |
| 野外技能・生活 | 52. | くらい林の中の道を、ひとりで歩くことができる      |
| 野外技能・生活 | 66. | 洗濯機がなくても、手で洗濯できる            |

### 第3章 野外教育を通じた青少年の変容について－アンケート結果・考察－

#### (1) アンケート結果

アンケートを実施し、13人の回答が得られた。回答は前章で述べたように点数化したものを学年、在籍期間、キャンプ参加回数のそれぞれに着目し、並べ替えた表を作成した(資料一覧)。その中で、関係性が強く表れた宿泊を伴うキャンプへの参加回数に着目する。キャンプ参加回数が増加と各項目の数値の変化をグラフにすると以下のようなになる(図2)

出展：筆者作成

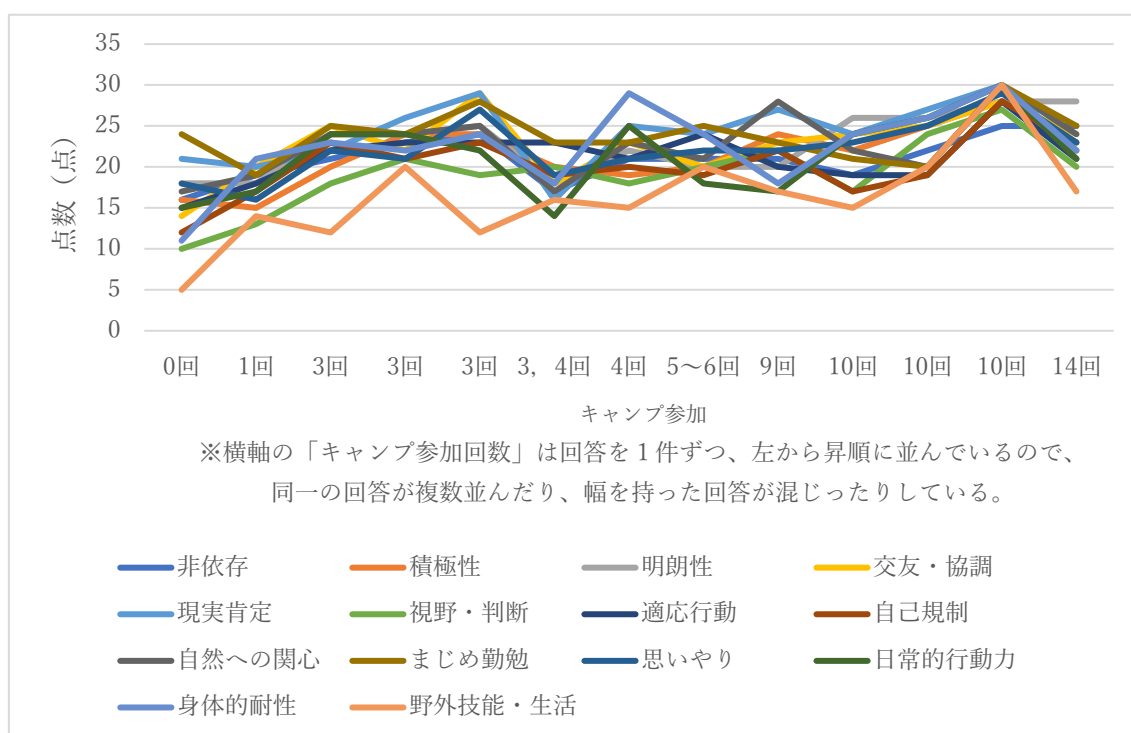


図2のグラフから各項目ごとに近似曲線の数式を抜き出し表にした(表2)。

表2 各項目ごとの近似曲線数式

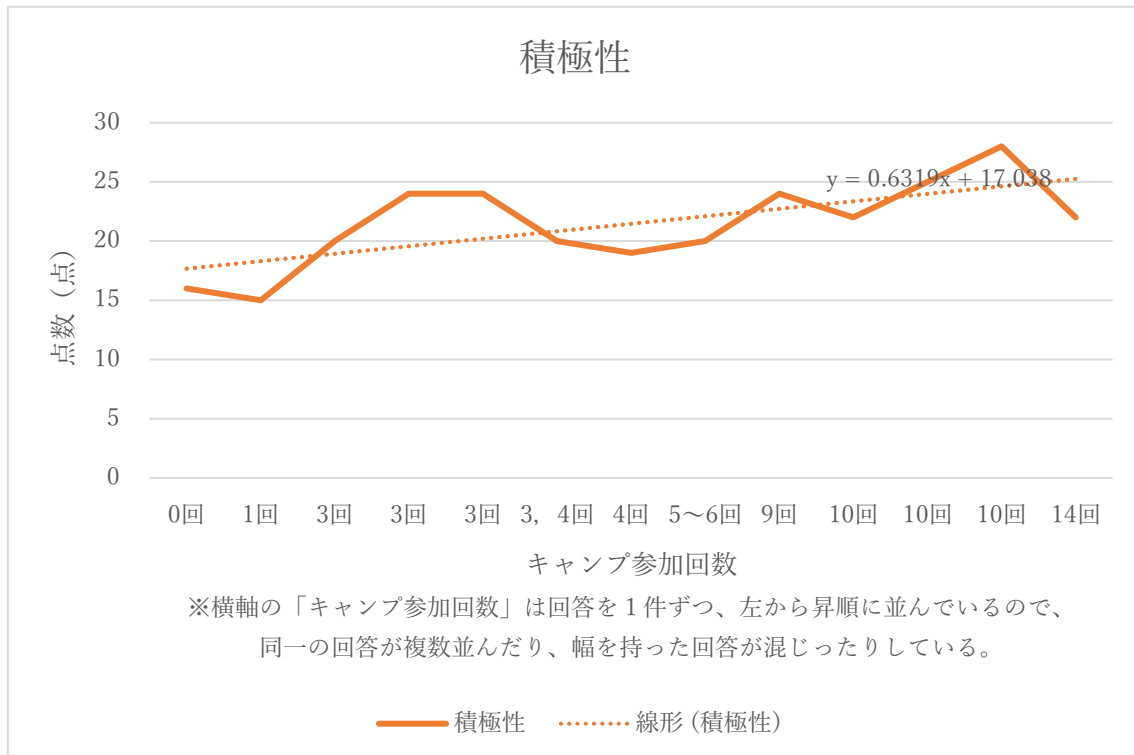
|          | 項目    | 近似曲線数式                 |
|----------|-------|------------------------|
| 心理的社会的能力 | 非依存   | $y = 0.4066x + 18.231$ |
|          | 積極性   | $y = 0.6319x + 17.038$ |
|          | 明朗性   | $y = 0.6374x + 18.385$ |
|          | 交友・協調 | $y = 0.5275x + 19$     |
|          | 現実肯定  | $y = 0.4066x + 21.231$ |

|       |         |                        |
|-------|---------|------------------------|
|       | 視野・判断   | $y = 0.8132x + 13.462$ |
|       | 適応行動    | $y = 0.3132x + 19.038$ |
| 徳育的能力 | 自己規制    | $y = 0.5x + 16.731$    |
|       | 自然への関心  | $y = 0.467x + 19.346$  |
|       | まじめ勤勉   | $y = 0.1319x + 22.923$ |
|       | 思いやり    | $y = 0.5824x + 18.077$ |
| 身体的能力 | 日常的行動力  | $y = 0.5659x + 17.346$ |
|       | 身体的耐性   | $y = 0.6758x + 17.731$ |
|       | 野外技能・生活 | $y = 1.0055x + 9.3462$ |

出展：筆者作成

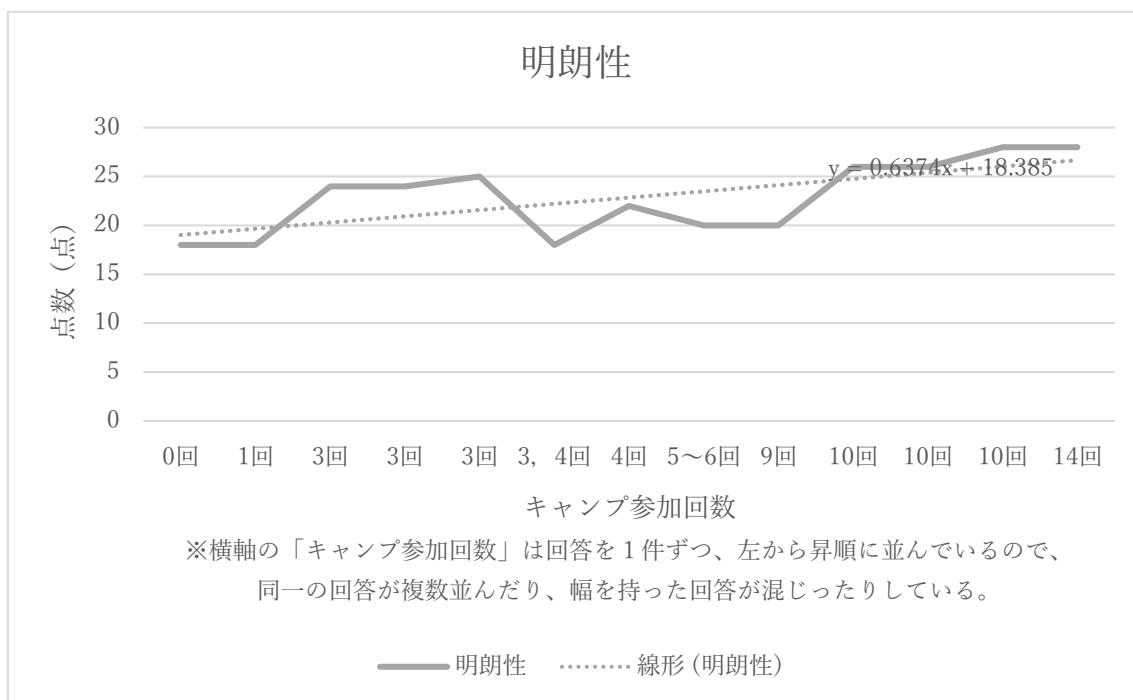
表2から分かるようにすべての項目において増加している。特に増加傾向が見られた項目として、積極性、明朗性、視野・判断、身体的耐性、野外技能・生活の5つが挙げられ、以下にそれぞれグラフにした。

図3 キャンプ参加回数に伴う積極性の変化



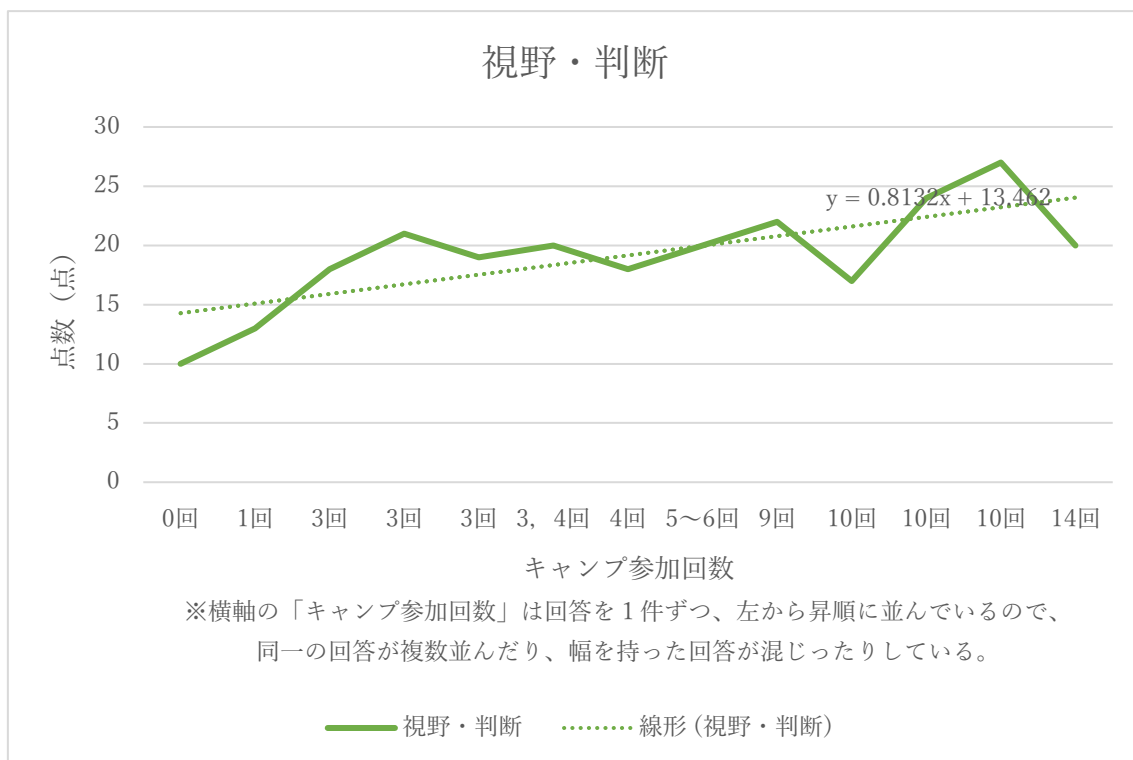
出展：筆者作成

図4 キャンプ参加回数に伴う明朗性の変化



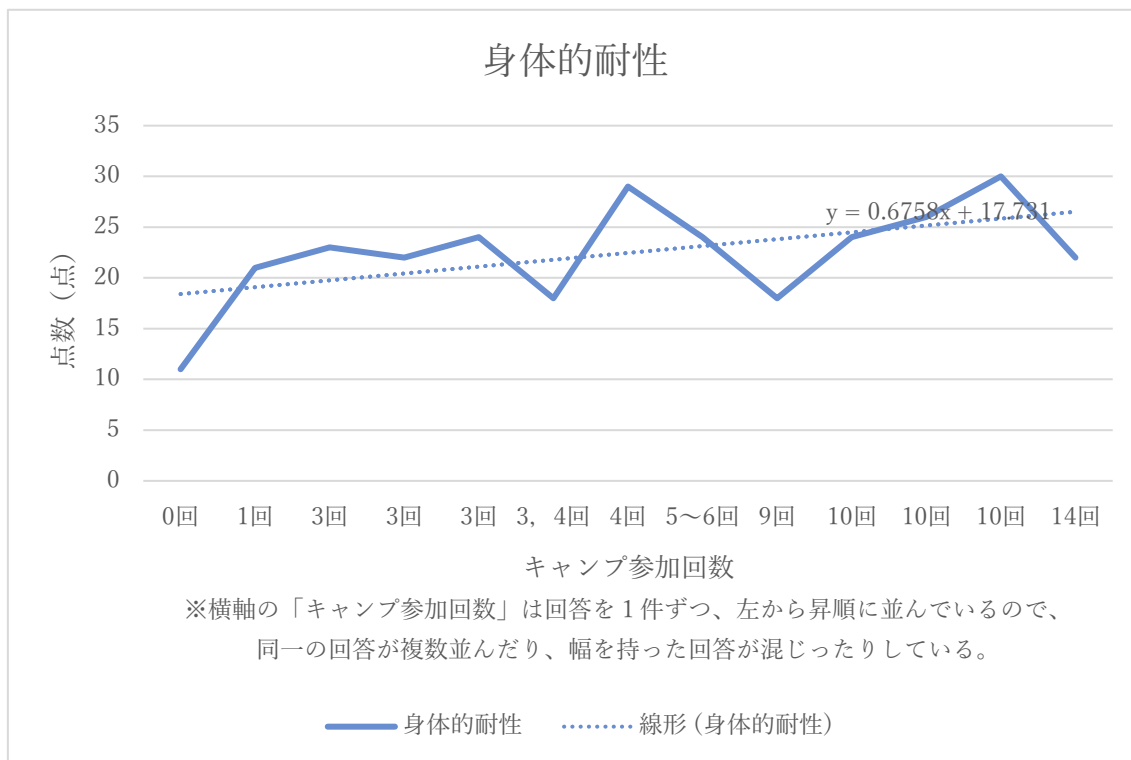
出展：筆者作成

図5 キャンプ参加回数に伴う視野・判断の変化



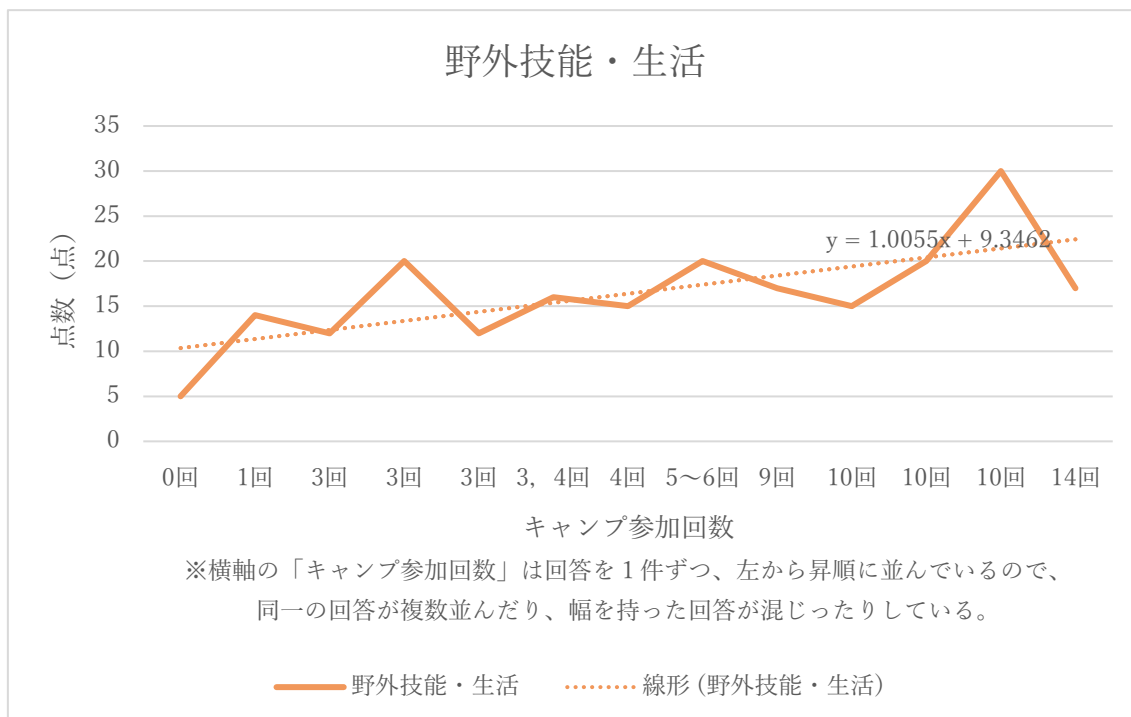
出展：筆者作成

図6 キャンプ参加回数に伴う身体的耐性の変化



出展：筆者作成

図7 キャンプ参加回数に伴う野外技能・生活の変化



出展：筆者作成

## (2) 考察

(1) アンケート結果で特に増加が見られた項目を抜き出した。身体的能力にあたる項目が3つのうち2つも抜き出されたことから、野外活動を行うことは「生きる力」の中の特に身体的能力に影響を与えたと言える。これは、学校教育の範囲を超えた、自然という特異な環境の中に身を置き、またYMCAでは集団で活動することを重視しているのでヒトと共に行う野外活動ならではの経験が影響していると考えられる。ただ、影響を与える要素が多く考えられるため特定することは出来ないがキャンプの影響があると言えるのではないか。ここからYMCAの活動目標である青少年の育成を達成していると思われる。



## 参考文献

文部科学省 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要

文部科学省資料11「生きる力」と資質・能力について（平成20年中央教育審議会答申抜粋 000000000000）

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/095/shiryo/attach/1329017.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/095/shiryo/attach/1329017.htm)

文部科学省ホームページ

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286155.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286155.htm)

尾木直樹（2000）『子どもの危機をどう見るか』岩波新書

河合雅雄（2007）『子どもと自然』岩波新書 78

仙田満（2006）『子どもと遊びー環境建築家の眼ー』171

岡田成弘・坂本昭裕・川田泰紀・堀松雅博「2019 キャンプ中の自然へのアタッチメントを感じる体験が小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果」『野外教育研究』

橘直隆・平野吉直・関根章文 2003. 「長期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす影響」『野外教育研究』6-2：1-12.

資料一覧

表3 在籍期間から見る回答得点

| 学年   | 在籍期間  | 柔軟性 | 積極性 | 明朗性 | 交友・協賛 | 現実肯定 | 視野・判断 | 適応行動 | 自己規制 | 自然への関心 | まじめの勤勉 | 思いやり | 日常的行動力 | 身体的耐性 | 野外技能・生活 |
|------|-------|-----|-----|-----|-------|------|-------|------|------|--------|--------|------|--------|-------|---------|
| 小学3年 | 小学3年生 | 24  | 24  | 25  | 29    | 29   | 19    | 23   | 23   | 25     | 28     | 27   | 22     | 24    | 12      |
| 小学3年 | 1~5年  | 16  | 16  | 18  | 14    | 21   | 10    | 15   | 12   | 17     | 24     | 18   | 15     | 11    | 5       |
| 小学6年 | 1~7年  | 21  | 20  | 24  | 25    | 22   | 18    | 22   | 23   | 24     | 25     | 22   | 24     | 23    | 12      |
| 小学4年 | 3~7年  | 23  | 24  | 24  | 22    | 26   | 21    | 23   | 21   | 24     | 24     | 21   | 24     | 22    | 20      |
| 小学4年 | 5~6年  | 17  | 20  | 18  | 18    | 16   | 20    | 23   | 19   | 17     | 23     | 19   | 14     | 18    | 16      |
| 小学5年 | 5~6年  | 21  | 19  | 22  | 23    | 25   | 18    | 21   | 20   | 23     | 23     | 21   | 25     | 29    | 15      |
| 中学1年 | 5~6年  | 19  | 22  | 26  | 24    | 24   | 17    | 19   | 17   | 22     | 21     | 23   | 24     | 24    | 15      |
| 中学1年 | 5~6年  | 19  | 15  | 18  | 20    | 20   | 13    | 18   | 17   | 19     | 19     | 16   | 17     | 21    | 14      |
| 小学5年 | 6~7年  | 21  | 24  | 20  | 23    | 27   | 22    | 20   | 22   | 28     | 23     | 22   | 17     | 18    | 17      |
| 中学3年 | 6~7年  | 25  | 22  | 28  | 24    | 22   | 20    | 21   | 23   | 24     | 25     | 23   | 21     | 22    | 17      |
| 小学4年 | 7~8年  | 25  | 28  | 28  | 28    | 30   | 27    | 28   | 28   | 30     | 30     | 29   | 30     | 30    | 30      |
| 小学4年 | 8~9年  | 22  | 25  | 26  | 25    | 27   | 24    | 19   | 19   | 20     | 20     | 25   | 26     | 26    | 20      |
| 小学5年 | 9~10年 | 21  | 20  | 20  | 20    | 24   | 20    | 24   | 19   | 21     | 25     | 22   | 18     | 24    | 20      |

出展：筆者作成

表4 学年順から見る回答得点

| 学年    | 在籍期間  | キャンプへの参加回数 | 非依存 | 課題生 | 説明生 | 文友・読書 | 発表予定 | 批評・判断 | 通感行動 | 自己批判 | 自然への関心 | まじの動機 | 思いやり | 日常的行動力 | 身体的耐性 | 野外技能・出席 |
|-------|-------|------------|-----|-----|-----|-------|------|-------|------|------|--------|-------|------|--------|-------|---------|
| 小学3年生 | 1~2年  | 0回         | 16  | 16  | 18  | 14    | 21   | 10    | 15   | 12   | 17     | 24    | 18   | 15     | 11    | 5       |
| 小学1年  | 5~6年  | 1回         | 19  | 15  | 18  | 20    | 20   | 13    | 18   | 17   | 19     | 19    | 16   | 17     | 21    | 14      |
| 小学3年  | 半年未満  | 3回         | 24  | 24  | 25  | 29    | 29   | 19    | 23   | 23   | 25     | 28    | 27   | 22     | 24    | 12      |
| 小学6年  | 1~2年  | 3回         | 21  | 20  | 24  | 25    | 22   | 18    | 22   | 23   | 24     | 25    | 22   | 24     | 23    | 12      |
| 小学4年  | 3~4年  | 3回         | 23  | 24  | 24  | 22    | 26   | 21    | 23   | 21   | 24     | 24    | 21   | 24     | 22    | 20      |
| 小学4年  | 5~6年  | 3, 4回      | 17  | 20  | 18  | 18    | 16   | 20    | 23   | 19   | 17     | 23    | 19   | 14     | 18    | 16      |
| 小学5年  | 5~6年  | 4回         | 21  | 19  | 22  | 23    | 25   | 18    | 21   | 20   | 23     | 23    | 21   | 25     | 20    | 15      |
| 小学5年  | 9~10年 | 5~6回       | 21  | 20  | 20  | 20    | 24   | 20    | 24   | 19   | 21     | 25    | 22   | 18     | 24    | 20      |
| 小学5年  | 6~7年  | 9回         | 21  | 24  | 20  | 23    | 27   | 22    | 20   | 22   | 28     | 23    | 22   | 17     | 18    | 17      |
| 小学4年  | 7~8年  | 10回        | 25  | 28  | 28  | 28    | 30   | 27    | 28   | 28   | 30     | 30    | 29   | 30     | 30    | 30      |
| 小学4年  | 8~9年  | 10回        | 22  | 25  | 26  | 25    | 27   | 24    | 19   | 19   | 20     | 20    | 25   | 26     | 26    | 20      |
| 中学1年  | 5~6年  | 10回        | 19  | 22  | 26  | 24    | 24   | 17    | 19   | 17   | 22     | 21    | 23   | 24     | 24    | 15      |
| 中学3年  | 6~7年  | 14回        | 25  | 22  | 28  | 24    | 22   | 20    | 21   | 23   | 24     | 25    | 23   | 21     | 22    | 17      |

出展：筆者作成

表5 キャンプ参加回数から見る回答得点

| 学年    | 在籍期間 | キャンプへの参加回数 | 非依存 | 積極性 | 時間性 | 文章・絵画 | 観察・判断 | 適応行動 | 自己規制 | 自然への関心 | まじの動機 | 思いやり | 日常的行動力 | 身体的耐性 | 野外技能・生活 |
|-------|------|------------|-----|-----|-----|-------|-------|------|------|--------|-------|------|--------|-------|---------|
| 小学3年生 | 1~2年 | 0回         | 16  | 16  | 18  | 14    | 10    | 15   | 12   | 17     | 24    | 18   | 15     | 11    | 5       |
| 小学3年生 | 1~2年 | 0回         | 19  | 15  | 18  | 20    | 13    | 18   | 17   | 19     | 19    | 16   | 17     | 21    | 14      |
| 小学3年生 | 1~2年 | 3回         | 24  | 24  | 25  | 29    | 19    | 23   | 23   | 25     | 28    | 27   | 22     | 24    | 12      |
| 小学3年生 | 1~2年 | 3回         | 21  | 20  | 24  | 25    | 18    | 22   | 23   | 24     | 25    | 22   | 24     | 23    | 12      |
| 小学4年生 | 3~4年 | 3回         | 23  | 24  | 24  | 22    | 21    | 23   | 21   | 24     | 24    | 21   | 24     | 22    | 20      |
| 小学4年生 | 3~4年 | 3、4回       | 17  | 20  | 18  | 18    | 20    | 23   | 19   | 17     | 23    | 19   | 14     | 18    | 16      |
| 小学5年生 | 5~6年 | 4回         | 21  | 19  | 22  | 23    | 18    | 21   | 20   | 23     | 23    | 21   | 25     | 29    | 15      |
| 小学5年生 | 5~6年 | 5~6回       | 21  | 20  | 20  | 24    | 20    | 24   | 19   | 21     | 25    | 22   | 18     | 24    | 20      |
| 小学5年生 | 5~6年 | 9回         | 21  | 24  | 20  | 23    | 22    | 20   | 22   | 28     | 23    | 22   | 17     | 18    | 17      |
| 小学4年生 | 7~8年 | 10回        | 25  | 28  | 28  | 28    | 27    | 28   | 28   | 30     | 30    | 29   | 30     | 30    | 30      |
| 小学4年生 | 8~9年 | 10回        | 22  | 25  | 26  | 25    | 24    | 19   | 19   | 20     | 20    | 25   | 26     | 26    | 20      |
| 小学1年生 | 5~6年 | 10回        | 19  | 22  | 26  | 24    | 24    | 19   | 17   | 22     | 21    | 23   | 24     | 24    | 15      |
| 小学3年生 | 6~7年 | 14回        | 25  | 22  | 28  | 24    | 22    | 21   | 23   | 24     | 25    | 23   | 21     | 22    | 17      |

出展：筆者作成